

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3671300444	
法人名	医療法人敬和会	
事業所名	グループホーム那賀川たんぼぼ	
所在地	徳島県阿南市那賀川町今津浦宮内71-1番地	
自己評価作成日	平成31年1月26日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会	
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階	
訪問調査日	平成31年3月3日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

静かな環境の中で利用者が穏やかに生活されています。行事や食事、庭に植えた野菜や花等で季節や自然を感じて頂ける様配慮しています。買い物・外食・お誕生会・おやつレク・他のグループホームとの交流会等の行事も多くあり楽しんでいます。医療との連携も整い、月1回の医師も交えた同系列との合同カンファレンスを行い情報交換やアドバイスを受けて利用者の健康管理やケアに役立っています。食事も季節や好み、行事にあわせた献立を作成し旬の食材を使用して一人ひとりの体調や眼下状態により提供して食事を楽しんでもらえる様工夫しています。家庭的な雰囲気の中で安全に安心して過ごして頂ける様に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、周囲に田畑がある、閑静な住宅地に位置している。日中は玄関に施錠をしていないため、同事業部のデイサービス利用者や地域住民が気楽に立ち寄れる憩いの場となっている。年1回、事業所で祭りを開催し、利用者や家族、ボランティア、運営推進委員、近隣住民など多くの参加を得ている。同一法人の運営する医療機関がかかりつけ医であり、毎日の往診や緊急時に素早く連携を図ることができるため、利用者や家族、職員の安心に繋がっている。職員は、利用者は家族であり、事業所は家であると考え、日頃から利用者本位となるよう支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月初めの朝礼時に理念を唱和し、理念の意味をふり返り、実践できているか確認している。ユニット毎に理念を掲示し、意識して実践に繋げる様努めている。	事業所では、理念を入口に掲示することで、日頃から理念の意味を確認しつつ、実践できるよう工夫している。月始めには、全職員で理念について話しあい、共有化を図り、サービスの質の向上に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議には近所の方々や駐在所の警察官が参加し情報交換を行っている。地域の小・中学校の古紙回収にも参加し、利用者と事業所のお便りを配布して交流を図っている。また災害時等の協力体制も話し合っている。	事業所では、利用者と職員で近隣の散歩にでかけたり、年2回の廃品回収に協力したりして、地域との交流を図っている。地域に出かけた際、事業所便りを配付して、行事やイベント情報を伝えることで、地域住民と顔見知りの関係を築くよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議やオレンジカフェ羽那カフェ等に参加また日頃の近所付き合いを通じて認知症への理解や利用者の暮らしぶりを理解していただくよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を開催し、地域の方々や駐在所の警察官の参加があり、利用者ご家族や出席者の情報交換の場になっている。地域の方の思いや生の意見を聞きサービスの向上に繋げている。	2か月に1回、運営推進会議を開催し、利用者や家族、市担当者、社会福祉協議会、地元駐在所の警察官等多くの参加を得ている。会議では、意見の聞き取りや情報交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。同業者との交流もあり、取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月市窓口担当を訪問し事業所便りを届けている。事業所の利用状況や活動状況を伝え、疑問や相談時はその都度対応してもらおう体制を築いている。	毎月、職員は、市の担当窓口を訪問し、実績報告書を提出している。担当窓口では、事業所の取り組みを伝えたり、地域の情報を得たりして、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を開催し、身体拘束についての研修も行い全職員が身体拘束の内容と弊害を認識するよう努め身体拘束をしないケアに取り組んでいる。声をかけあい安全面に配慮しその人らしい生活が出来る様努めている。	事業所では、身体拘束についての研修を開催している。研修では、身体拘束の内容と弊害について理解を深め、認識の共有化を図っている。研修後は全職員で話しあい、身体拘束を行わず、安全面に配慮したケアに取り組み、利用者の自由な暮らしを支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者と職員は、研修等により学び、話し合いを行い虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修及び施設内研修や資料、また市や民生委員等からの知識を得て必要とされる利用者が活用出来る様に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族に十分に説明をし、同意を得た上で理解、納得され契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族が話しやすい雰囲気や関係を作る様努め意見や要望を聞いている。出された意見や要望は職員で話し合い、運営や支援に反映出来る様努めている。	職員は、日頃の支援の中で利用者の意見や要望を聞き取っている。家族の来訪時には、職員から声かけを行い、状況報告するとともに、意見や要望を聞き取るよう努めている。出された意見や要望は、全職員で話しあい、運営面に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は毎日のミーティング時や反省会等、常に意見交換出来る様にしている。職員の気づきやアイデア等を取り入れて、試してみても話し合い運営に反映している。	管理者と職員は、何でも話しあえる関係を築いている。提案された気づきやアイデアは運営面に反映され、職員の働く意欲の向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や努力を昇給に反映させ、向上心を持って仕事出来る等、働き易い環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加し、毎月施設内研修を実施し、職員の技術や知識を身に付け、質や意識の向上出来る様努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同系列のグループホームとの交流会を行い、親睦を深めたり情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族等より、これまでの生活状況等を聞き、把握し、利用者本人の話をよく聞き、観察し、安心して生活が出来る様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前より家族と話し合いを行い、困っている事や要望を伺い、対応が出来る様に努め、普段より何でも話し合える関係づくりを築く様こころがけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合い、必要な支援を見極め、その中で必要に応じて他のサービスの利用も出来る様に支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をし、何でも話が出来、喜怒哀楽を分かちあえる様な関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、家族に送付する事業所便りで、各担当の職員が利用者の様子や気づきを伝えている。ご家族との連携を図り共に利用者を支えていける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事やオレンジフェに参加し、昔からの知り合いに出会ったり、親戚、友人等の来訪もある。運営推進会議で昔なじみと再会される等これまでの関係が続くように努めている。	事業所では、同一敷地内にあるデイサービス利用者と交流したり、友人や知人の来訪を快く受入れたりしている。また、地域の行事に参加したり、家族の協力を得て馴染みの店舗等への外出支援をしたりして、利用者の関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、利用者一人ひとりの性格や利用者同士の性格を見極め会話の中に入ったり、見守りしながら孤立せず共に楽しめる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行い、他の事業所に移る場合も情報交換を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共に生活をする利用者との関わりの中でその時々様子から希望や意向の把握に努めている。利用者の立場になり考えた支援が出来る様にこころがけている。	職員は、利用者一人ひとりが、その人らしく生活することができるように、暮らし方の把握に努めている。会話や些細な表情の変化などから意向を把握している。把握した情報は全職員で共有化を図り、要望に応えられるよう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集を行い、今までの生活歴を把握し、自分らしい生活が出来る様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の心身状態の把握に努め一人ひとりの状態を確認し記録して共有している。共に生活をする中での気づきや有する力を見出し活かせる様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週木曜日にケアカンファレンスを行い、家族や職員の気づきや意見を基に3ヶ月毎に見直しをして現状に応じた介護計画を作成している。	毎週木曜日、事業所では、ケアカンファレンスを開催している。会議では、職員の気づきや利用者家族の意見を聞き取り、支援計画に反映させている。また、3か月ごとに介護計画を見直し、現状にそった支援となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの個人ファイルを作成し、日々の様子や状況、気づきを記録し、全職員が情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連携を図り、その時々に応じたサービスが提供できるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には警察官、民生委員、市役所や地域包括センターの職員、婦人会、ご近所の方等が参加して情報交換を行い協力体制を築き、利用者が安心して暮らせるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療があり緊急時の協力体制も整っている。協力医療機関での受診を希望する家族が多い。協力歯科の訪問診療もある。これまでのかかりつけ医や、耳鼻科、皮膚科等受診する時は家族や職員が付き添っている。	事業所では、同法人内の医療機関がかかりつけ医となっている。医療法人と連携を取り、利用者一人ひとりの体調管理を行うことで、利用者や家族の安心に繋げている。専門医の受診は、家族の協力を得て受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や異常の早期発見に努め、常に看護職や訪問看護と連絡、相談をし援助を受けている。訪問看護と24時間連携体制を整え適切な医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携が充実しており入院時は家族と相談しケアについての話し合いを行い安心して入院治療が受けられるよう支援している。他の医療機関に入院する場合は本人に関する情報の提供を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族や本人と契約時に重度化した場合の方針について説明を行い同意を得ている。状態の段階毎に医師、家族との連携を図りながらより良いケアが出来る様支援している。	事業所では、契約の段階で、利用者や家族に重度化した場合の方針について説明し、同意を得ている。同一法人内の医療機関と連携が取れていることや看取りの経験を持った職員がいることで、利用者や家族の安心に繋がっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な対応、連絡が出来る様普段から話し合い、職員研修等で定期的に訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成して、年2回防災、避難訓練を実施し、また話し合いを行っている。運営推進会議では地域の方々や警察官、市の職員等と話し合いを行い、協力体制を築き、ご近所にはいつも気にかけて頂いている。	年2回、事業所では、火災や震災の避難訓練を実施している。避難経路の確認や職員連絡網など、日頃からできることを全職員で共有している。また、運営推進会議の議題にも取り上げ、地域住民や関係者との協力体制を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に利用者の立場になった支援やプライバシーの確保が出来る様に、また理念の通り利用者一人ひとりの尊厳を守る事を基本に全職員が実践出来る様努めている。	職員は、利用者を年長者として敬い、利用者本位の支援となるよう取り組んでいる。入浴時や排泄時には、特にプライバシーに配慮して声掛けを行っている。また、日頃の支援においても、利用者一人ひとりの人格や尊厳を守るよう、職員同士で確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共に生活する中から利用者一人ひとりの性格や嗜好等を把握し、何がしたいか、どうしたいか、何を食べたいか等の希望を聞き取ったり、読み取る事が出来る様努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調や気分配慮し、各々のペースに合わせた支援に努めているが職員側の都合で決めていることもあり、希望に沿った支援が出来る様に職員で話し合いたい。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所に出向いて来てくれる美容師を利用している。家族がなじみの化粧品を持ってきてくれる方もいる。一人ひとりの好みに合わせてその人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は利用者のいちばんの楽しみで、希望を聞いたり、行事や季節にあわせた献立を立て、旬の食材を使い、好み、食事形態、病状に合わせた食事を提供している。職員と同じテーブルを囲み食事をし調理や洗い物等を出来ることを共にやっている。	事業所では、行事食や季節の食材を調理したり、職員とともに食事をとったりすることで、利用者に食事を楽しんでもらえるよう工夫している。お盆拭きや食器洗い等、利用者一人ひとりの体調に合わせてできることを手伝ってもらっている。かかりつけ医とも相談し、病状に合わせて食事の形状にも配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の好みや習慣、食事の様子等を把握しながら、各々に合った食事の摂り方や食器を工夫している。嚥下の状態に応じた形態や病状や体調に合わせた食事を提供する様努めている。食事や水分の摂取量も毎回チェックし、健康状態を把握している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い自力で出来る人は声かけ見守りを行い、出来ない人は介助している。週一回入れ歯洗浄剤を使い清潔を保つよう努めている。		

自己	外部	項目	1F		
			自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表の活用、見守りにより一人ひとりの排泄習慣を把握し不安感を無くすように努め、トイレ誘導を行っている。身体機能に応じたトイレ介助を行いオムツを使用しない排泄を支援している	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレへの誘導を行っている。希望によりポータブルトイレを部屋に設置するなど、利用者一人ひとりの習慣を踏まえた自立支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表により利用者一人ひとりの排便の状況を把握し、野菜を多く取り入れた献立や乳製品を毎日取り入れるよう工夫し、機能訓練や日々の生活の中で運動不足の軽減に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの身体機能や体調、希望に合わせて浴槽につかられたり、シャワー浴や足浴を行っている。菖蒲湯やゆず湯で季節を感じて頂き、各々に応じた入浴を楽しんで頂いている。	週3回、事業所では、入浴支援を行っている。利用者の体調により、シャワー浴や清拭支援に代えることで、清潔保持に取り組んでいる。季節ごとにゆず湯やしょうぶ湯を行い、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体調を重視して休んで頂いたり、自然な生活リズムが作れるよう日中の過ごし方や関わり方を工夫してその人に合った睡眠や休息が出来る様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成し全職員が飲み方や効能、副作用等を把握するよう努めている。服薬時は飲んでいるか確認し薬の変更がある場合は状態の変化に留意している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族や本人から話を伺い、これまでの生活歴から楽しみや嗜好を見出し、楽しんで過ごして頂き、台所の手伝いや縫い物等利用者の知恵や経験が発揮出来る様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の体調や希望に応じて外食や、季節に応じた外出、買い物やドライブ、地域の文化祭等にも出かけている。、家族と外食や買い物に出かけられる方もおり、ご近所を散歩したり、事業所の庭での外気浴もやっている。	事業所では、天気の良い日に庭で野菜の収穫をしたり、近所に散歩に出かけたりしている。利用者の希望により外食や花見、買い物、ドライブなどの外出支援を行っている。また家族の協力を得て、墓参りや帰宅の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			1F 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の希望や力に応じて家族と話し合い、各々に応じた管理方法を決めている。好きなものや必要なものにお金を使える様支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プライバシーに配慮しながら、家族の協力を得て電話や手紙を出す為の支援をしている。。年賀状も利用者の力に合わせて書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花や観葉植物を置き、季節を感じられる様にしている。台所からは調理の匂い包丁を使っているの音を感じて自宅で過ごされているような家庭的な共用空間作りに努めている。	共用のスペースは、大きな窓があり、外の景色を眺めることができる。窓の近くにはソファが置かれ、くつろぐことができる空間となっている。壁には、利用者と一緒に季節の飾り付けを行ったり、行事の写真を掲示したりして、季節を感じられるよう工夫している。台所が見える位置に机があり、調理の音や匂いを感じることができ、家庭的な雰囲気作りに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者が話ができる様テーブルの席の場所に気をつけている。玄関や2階の踊り場にもソファを置き、くつろがれたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室と洋室があり身体の状態やこれまでの生活に合わせて自宅で使っていた馴染みのものや好きなものを持ち込んでもらい、自宅の延長で居心地良く生活してもらえるよう配慮している。	居室には、利用者の使い慣れた家具や馴染みの物を持ち込んでもらっている。思い出の家族写真や自分が作成したカレンダーなどを壁に貼り、落ち着いて過ごすことができるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりに合わせた生活ができる様職員が話し合いを行い意見を出し安全な環境作りに努めている。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている		ユニット入り口に理念を掲げて管理者と職員は理念を共有し実践に繋げている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している		ご近所さんが野菜を届けてくれたり、いつも事業所の事を気にかけて下さっている。ボランティアの訪問や文化祭等の行事への参加、事業所への行事に招待して交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている		事業所の行事や日頃の付き合い等により利用者の暮らしぶりや認知症への理解を深めて頂き、意見を聞いたりして地域に貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている		地域の方や家族、民生委員、市の職員や警察官等参加された方々との意見交換や事業所の取り組み、内容の報告を行いサービス向上に反映出来るよう努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる		毎月市担当窓口を訪問し業者便りを届けその際に利用状況や活動状況を伝え情報収集や意見交換等を行い協力体制を整えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる		身体拘束適正化の委員会、身体拘束についての研修を行い全職員が内容と弊害を学び、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者一人ひとりの状態を見極め安全面に配慮し自由な暮らしを支援出来る様努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている		施設内研修等で虐待防止に関する研修を行い、学ぶ機会を多く持ち虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は施設内研修のより学び必要とされる利用者が活用出来る様に支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、家族や利用者要充分説明を行い、同意を得た上で理解、納得され契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族からの意見や要望は職員全員で話し合い、議論し記録に残し意見を反映出来る様努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時やいつでも職員と自由に意見交換出来る様にして、気づきや意見を反映出来る様に努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの実績や努力を昇給に反映させ、向上心を持って仕事出来る様に配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加したり、毎月施設内研修を実施している。全職員で共有し質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流会に参加したり、オレンジカフェ等に参加して情報交換を行いサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の不安等を解消し、安心して頂ける様本人や家族と話し、より良い関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に利用者や家族と話し合いをして、要望や意見を聞き取り信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族と話し合いを行い必要な支援を行い、必要な支援を見出し他のサービスも利用出来る様支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に生活をし何でも話が出来、喜怒哀楽を分かち合えるような関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月家族が送付する事業所便りで、各担当の職員が利用者の様子や気づきを伝え、家族との連携を図り、共に利用者を支えていける様に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人、親戚等との面会の時間はきめられておらず、宿泊する事も出来る。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	普段の生活の中で、利用者一人ひとりの性格や利用者同士の性格を見極め会話の中に入ったり、見守りしながら孤立せずに共に楽しめる様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて相談や支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりがその人らしく生活ができる様 利用者の立場になり考えて話し合い支援が 出来る様努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族から情報収集を行い、今までの生活歴を把握し、自分らしい生活ができる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	常に利用者の心身状態の把握に努め、一人ひとりの状態を確認し記録して共有している。共に生活する「中での気づきや、有する力を見出し活かせるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎週木曜日にケアカンファレンスを行い、家族や職員の気づきや意見を基に3ヶ月毎に見直しをして現状に応じた介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者一人ひとりの個人ファイルを作成し、日々の様子や状況、気づきを記録し、全職員が情報を共有しケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族との連携を図り一人ひとりのニーズに合わせた対応ができる様努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議には警察官、民生委員、市役所や地域包括センターの職員、婦人会、ご近所の方等が参加して情報交換を行い協力体制を築き、利用者が安心して暮らせる様努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の訪問診療があり緊急時の協力体制も整っている。協力医療機関を希望する家族が多い。協力歯科の訪問診療もありこれまでのかかりつけ医や耳鼻科、皮膚科等受診する時は家族や職員が付き添っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化や異常の早期発見に努め、常に看護職や訪問看護と連絡相談し、援助を受けている。訪問看護と24時間連携体制を整え適切な適切な医療支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携が充実しており入院時は家族と相談しケアについての話し合いを行い安心して入院治療が受けられるよう支援している。他の医療機関に入院する場合は本人に関する情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師の指示の下、訪問看護による処置が受けられる体制を整え契約時にターミナルケアが安心して受けられるよう説明している。医師、家族との連携を図りながらより良いケアが出来る様支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に適切な対応、連絡が出来る様普段から話し合い、職員研修等で定期的な訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災計画を作成して年2回防災、非難訓練を実施し、また話し合いを行っている。運営推進会議では地域の方々や警察官、市の職員、地域の方々との話し合いを行い、協力体制を築き、ご近所にはいつも気にかけて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員が利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した声かけや対応が出来る様努めている。			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	共に生活することにより信頼関係を作り希望や願い、好みを把握できる様努め自己決定出来る様支援している。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースに合わせた暮らしが出来る様に努めているが、職員の都合で希望に添えないときもある。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	事業所の出向いてくれる美容師を利用している。その人らしい身だしなみやおしゃれが出来る様支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望や好みを聞き旬の食材や季節に合った献立を立て調理や片付けなど出来る事を共に行っている。同じテーブルを囲み楽しく食事出来る様に工夫している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの体調や疾病、嚥下状態に合わせた調理を行い介助方法や食器なども、食事を摂りやすいように話し合い工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い口腔ケアを行っている。自力で出来る方は見守りし、困難な方は介助している			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			2F 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により一人ひとりの排泄習慣を把握し声掛けを行いトイレ誘導を行い自立への支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排便の状況を把握し食事や生活習慣、運動の工夫をすように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者一人ひとりの希望や体調に応じて浴槽につかられたりシャワー浴やチェアー浴、足浴等を行い個々に合った入浴を支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣や状況を把握し一人ひとりに合った睡眠が出来る様支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの服薬ファイルを作成している。全職員が服薬状況や目的を理解し体調の変化の把握に努め服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者一人ひとりの力に応じて経験や知恵を発揮して頂ける様支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や体調に合わせて夕食やドライブ、買い物等の外出支援を行っている。家族と買い物や食事等の外出も楽しまれている方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	2F	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と相談した上で各々に応じたお金の管理方法をきめている。外出時、買い物等にお金を使われている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談の上、電話をかけたり、手紙や年賀状のやり取りが出来る様支援している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	観葉植物や花等により季節や自然を感じて頂き、調理の匂いや音で安らぎや自宅の延長で過ごせるよう努めている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室やホールソファ等思い思いの場所で過ごされたりくつろがれたりしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの身体の状態や習慣に応じて和室や洋間を使われている。使い慣れたものを持ち込んでもらい自宅のように過ごせる様支援している。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体状況に応じた環境を作り、各々に合わせた生活を送れる様職員で気づきや意見を出し合い工夫している。			